

農作物技術情報 第7号 畜産

発行日 令和8年9月24日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 飼料用とうもろこし 収穫最盛期を迎えています。切断長、踏圧密度に留意して、安全に収穫調製を行いましょう。
- ◆ 牧 草 予乾が十分でなく、水分30～40%でロール成形する場合は、速やかにラップしてサイレージとし、自然発火を予防しましょう。
- ◆ 地域資源の活用 堆肥交換などにより稲わらを確保し、粗飼料や敷料として活用しましょう。
- ◆ 大 家 畜 牛の蹄を観察して、体調管理に役立てましょう。
夜は気温が13℃以下に低下するので、哺乳子牛の寒冷対策を始めましょう。

1 飼料用とうもろこし

(1) 生育状況

6月は最低気温がやや低く推移したため生育遅延が心配されましたが、雄穂の抽出はやや早い地域が多く、子実、茎葉の生育も平年並みとなっています。早い地域では8月下旬から収穫が始まっていますが、9月上旬の断続的な降雨により子実の登熟がやや緩慢となっています。

(2) 収穫の留意点

子実が黄熟期に達し水分が50%程度、全体の水分が70%程度になると収穫適期です。収穫時の切断長は10mm未満とし、踏圧密度と家畜の消化率を高めるようにします。

コーンクラッシャによる破碎処理を行う場合は、切断長を19mm、ローラーの間隙を黄熟期5mm（黄熟後期以降は2～3mm）とします。

過度の刈り遅れやすす紋病等の病害発生、霜にあたったとうもろこしは、水分含量が低く、貯蔵期間中のカビの発生やサイレージ開封後の好気的変敗が起こりやすくなります。このような場合は、乳酸発酵の促進には乳酸菌製剤、酵素剤、糖蜜等を、不良発酵の抑制にはギ酸等を添加剤として使用し、良質発酵に努めます。

強風等により倒伏したほ場では、作業機の走行速度を遅くし、倒れた方向に対して斜め後ろから進入します。また、高刈りして土壌の混入を避け、十分な踏圧と早期密封に努め、発酵品質の低下を防

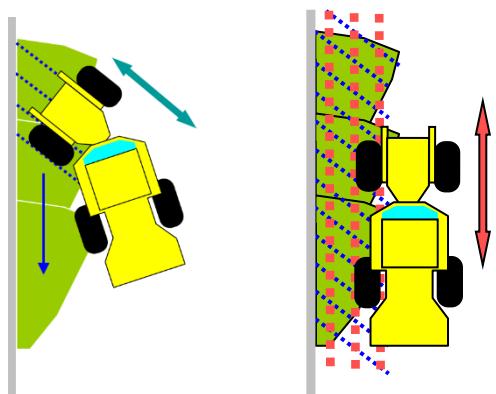


図1 壁に対して斜めに踏圧、

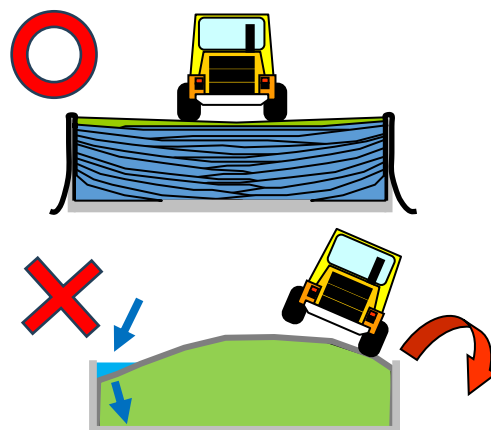


図2 詰込みはサイロの壁の高さまでとする
(かまぼこ型に盛り上げない)

ぎます。

バンカーサイロの場合は、**側壁側の踏圧を重点**に行います。壁に向かって斜めに走行した後、壁側の前輪で壁に平行に踏圧します（図1）。**詰込み量は壁の高さまで**とします。かまぼこ型に盛り上げると、壁と材料の間に雨水が侵入しやすいほか、作業機の転倒事故につながります（図2）。

2 牧草

（1）生育状況

2番草の収穫は、降雨の影響によりやや刈遅れとなりましたが概ね8月に終了し、3番草（または4番草）の収穫は、最盛期を迎えています。令和7年のような高温、乾燥は回避され、夏枯れ症状は顕著ではありませんが、収量は平年並み～やや不良の見込みです。

（2）収穫調製

晴天が続かない場合は、無理に乾草とせず**サイレージ調製**とします。水分が高い乾草（水分含量20%以上）は、ロール成形後、速やかにラップします。

牧草の水分が**30～40%となる場合は**、牧草の呼吸熱と微生物による発酵熱によりロールの内部温度が上がり自然発火しやすい状態となるため、**ファイヤーゾーン**と言われます。収穫から発火までの期間が30日前後の事例が多く、発火しなくても炭化や変性（くん炭化）する場合があります。ロール牧草が放熱しやすいよう**通気の良い状態で保存する、ロールの温度を測定する等**の対策を行います。

（3）最終刈取後の雑草防除

ギンギンやガガイモ、ワルナスビ等の発生が多かった草地では、来春の発生抑制のため、広葉雑草に効果のある除草剤の散布を検討します。牧草の播種当年には使用しない、最終刈取後30日以内に散布する等、製品のラベルをよく読んで使用してください。

3 地域資源の活用

（1）堆肥交換等による稲わら、麦稈等の確保

稲わらは、**粗飼料**として給与できます（表1）。また、稲わらや小麦の麦稈は、分娩時や冬期の子牛の敷料として利用価値の高い地域資源です。耕種農家と連携し堆肥交換などにより稲わら、麦稈を収集し活用します。

肝蛭予防のため、稲わらは**4か月以上貯蔵**してから給与するか**サイレージ化**する、糞尿は十分に発酵させた堆肥にする、感染した牛は**駆虫薬で駆虫**する等を行います。

稲わらを収集する際は、**泥の混入を少なくし、よく乾いた状態で梱包**します。

【泥の混入を防止する方法】

- ・ ぬかるみの無い乾いたほ場で、晴れた日に稲刈りする
- ・ 稲は根元から**15cm以上の高さ**で刈り取る
- ・ コンバインで米を収穫する際、**わらを切断しない**
- ・ 刈り落としたわらは**雨に当てずに梱包**する、等



表 1 黒毛和種雌牛維持期（体重 500kg）への給与例

		養分要求量(kg)	稲わら無し	稲わら有り
給 与 量 (kg)	イネ科乾草		6	4.5
	繁殖牛用配合飼料		1	1
	稲わら		0	2
充 足 率 (%)	DM	6.5	88.9%	94.9%
	TDN	3.3	104.7%	104.7%
	CP	0.5	108.0%	103.0%

4 牛の飼養管理

秋になり、夏バテの症状が深刻になる場合があります。牛群をよく観察し、疾病の予兆を早めに見つけ適切に処置します。

気温の上がる日中は暑熱対策を継続し、熱が体内に籠らないように送風や換気を徹底します。

(1) ルーメンアシドーシスに注意

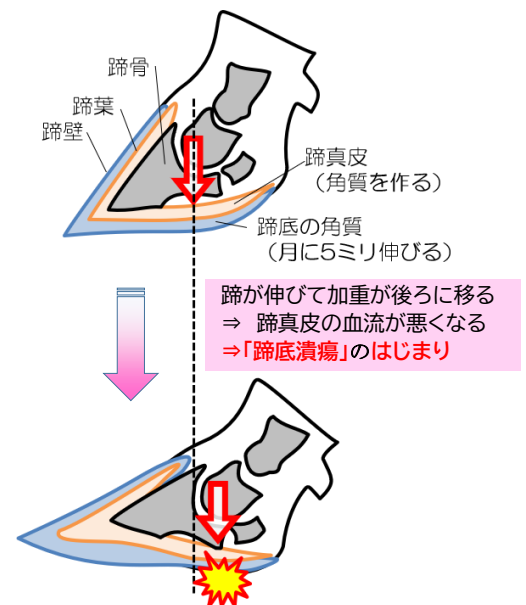
蹄冠部に赤みがある場合は、アシドーシス（過剰な穀類給与、繊維不足によりルーメンが酸性化）を発症している可能性があるため、管理を見直します。ルーメン pH が下がると、微生物が死滅する際に発生したエンドトキシンにより角質の形成が減少して蹄壁にスジが現れ、蹄葉炎を発症するといわれています。

慢性的なルーメンアシドーシスの回避のため、飲水量の確保、良質粗飼料の給与、デンプン濃度の調整、重曹、ビタミン類の補強などを再確認します。

(2) 定期的な削蹄

牛の蹄は月に 5mm 伸びると言われます。蹄が伸びすぎると加重位置が変わり、血流が悪化して蹄の角質がもろくなり、細菌感染を引き起こします。その後、蹄骨などの深い部分にまで感染が広がり蹄底潰瘍となります（図 3）。

年に 1～2 回、乾乳期や泌乳ピーク後をめどに削蹄を行います。起立した姿勢、歩行時の状態をよく観察し、問題がある場合は、早めに獣医師や削蹄師に処置を依頼します。



4 子牛の管理

9 月になると夜温は 13℃を下回るようになり、子牛は寒い夜を過ごしています。哺乳期の子牛は、体熱をうまく作れない時期なので、防寒対策を行い、子牛にとって快適な温度「13～25℃」の維持を目指します。

【子牛の防寒のポイント】

- ・ 腹冷え予防 寝てほしい所に、敷料（稲わら、オガクズ、乾牧草）をたっぷり敷く
糞尿はこまめに取り除き、牛体をぬらさない、バスマットを敷く（図4）
- ・ 防風 2方向（L字型）にコンパネなどで壁を作る
- ・ 換気 朝晩に換気を行い、新鮮な空気を取り入れる



バスマットが、床からの冷気を遮断



図4 防寒対策：バスマット敷設

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は10月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故
のもと 初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。